

週報

2023年度 教会標語

「礼拝に集おう！主に癒され、整えられて」

<先週の説教から>

『ミカ④ - もう預言を語るな』

武田真治牧師

ミカ書 2:6-13 ローマ信徒手紙 9:19-20

旧約聖書の『預言書』を読む時の秘訣は、その預言者の人生と併せて読んでいくことです。ミカは故郷「モレシエト」の村で神様から「幻」を与えられ、預言者に任命されたのですが、その「幻」は首都エルサレムの崩壊という“裁きの預言”を含んでいました。これはミカ自身にも非常に大きな驚きでした。誰よりも早くその神様の御計画を知らされたのですから。

そこでミカが起こした行動は、私たちも教えられるものです。それは、なんとかその滅びを免れられないかと故郷を出て、首都エルサレムへ向かい、人々に『このままでは滅びを招くから、悔い改めよ！』と説いたのです。これは、み言葉を先に与えられた私たちのこの地上での“役割”でもあります！

ところが、そのミカの預言に対して、当時のエルサレムで権力を振るい、私腹を肥やしていた王族や役人、大地主たちがこぞって反発したのです。それが今日の箇所「彼らは『こんなことについてたわごとを言うな。そんな非難は当たらない。ヤコブの家は呪われているのか。主は気短な方だろうか。これが主のなさる業だろうか』と言う。」です。この「たわごとを言うな」は別の翻訳では「説教をするな」「預言を垂れるな」とも訳されています。預言者としてのミカが存在全部を拒否する言葉です。当時の権力や富を持っている者達の“傲慢さ”がよく分かります。逆に言えば、このような状況だからこそ、神様は一度、壊さなければならぬと思われたと言い得ます。

ただ、上記の彼らの言葉は今の私たち、特に現代の世の中の人の考えそのものではないではないかと思えます。①「ヤコブの家は呪われているのか」=この世界が、日本が滅びるはずがない。②「主は気短な方だろうか」=神様は少々のことは許し、見逃してくれる愛の方である。③「これが主のなさる業だろうか」=神様はこの世や人間を愛しておられるのだから、裁くようなことは神様の業としてはふさわしくない。等々です。これらは結局、自分たちに都合の良い神様にしているのではな

いでしょうか。自分たちのわがままを聞いてくれて、口やかましくなく、いい事だけを与えてくれる存在として。でも、それが神様の御姿でしょうか、勝手な偶像化ではないかと。

以上のように真っ向から拒否されたミカですが、それでもう語らうことを辞めたのかと言えば、そうではなく「立て、出て行くがよい。ここは安住の地ではない。この地は汚れゆえに滅びる」と尚も“預言=神様の言葉”を語り続けます。私たち信仰者は神様からみ言葉を与えられた者で、伝道の業を担っています。ただ、み言葉を人々に語ろうとするとミカと同じように『たわごとを言うな』と反発が起こるのはむしろ当たり前だと言い得ます。忍耐と知恵を持つ必要があると言い得ますね。

【今週の集会】

*聖書研究・祈祷会 I. 9月27日(水) 20:00
II. 9月28日(木) 10:30

聖書: ハイデルベルク信仰問答

祈祷主題: 世界聖餐日10/1を覚えて

担当者: (水) 藤林 (木) 岡田

祈りに覚える人: 鈴木さん 鈴木さん

*ひつじ雲の会 9月26日(火) 13:30~

【教勢報告】

主日礼拝 男18 女50 計68

祈祷会 I. 男6 女2 計8 II. 男1 女9 計10

日曜学校 幼稚科8 小中科8 計16

【次週主日礼拝】 10月1日(日)

聖書: ミカ書 2:12~3:4

ローマの信徒への手紙 9:24~33

説教: 「ミカ⑤ - 裁きと救いの関係」

武田真治牧師

讃美歌: 369(1)、32、405(1~3)、494(1~3)、516(1、3、5)、79(1~2)、91(1)

【次週当番表】

司式: 金刺長老 奏楽: 中村 礼拝: 保坂長老

配餐: 羽倉 飯田 岩佐 金刺

齋藤 各長老

献金: 寺本 富澤 受付: 西尾 森本

会堂準備: 浅井 阿部 齋藤 山田

看板: 保坂 週報: 岩佐 お花: 森本

【次週集会予定】

礼拝前: ・求道者会 ・聖書輪読会

礼拝後: ・お茶の会 ・牧師と語る会 ・10月誕生者祝福式

・長老会 ・会堂管理委員会

2023年 9月 24日

日本キリスト教団 上尾合同教会
牧師 武田真治

〒362-0041 上尾市富士見2-3-33

TEL&FAX 048-771-6549

<http://www.ageo-church.org/>